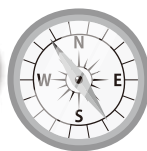


地質館だより



貝化石から知る仁淀川と足元の地層の不思議

仁淀川の素晴らしさ、そして不思議を体験できるイベント「仁淀ブルー体験博」。佐川地質館では、開催中の黒瀬川帯の特別展にちなみ、まるで時空を旅するかのような「貝化石の発掘体験」を体験博でご用意しています。

この体験の舞台となる地層は、「川内ヶ谷層群」と名付けられています。これは黒瀬川帯の地層としてはやや新しいものの、それでも周囲の地層よりも数千万年ほどは古い、およそ2.2億年も前の地層です。太古の海に生きた貝たちを、長い長い時を超えて集める…そんな「2億年越しの潮干狩り」は、普段の生活では味わえない、時を超える冒険そのもの。

ご家族やご友人と一緒に、仁淀川流域の自然の中で貝化石集めを体験してみませんか？また、仁淀ブルー体験博では、他にも様々なイベントが用意されています。不思議と感動に満ちたひとときを、きっと味わえるはずですので、ぜひご参加ください。

9月以降の地質館イベント

9月28日(日)、10月12日(日)、10月19日(日)、10月26日(日)、11月2日(日)

10:00～12:00 黒瀬川帯の貝化石発掘体験

詳しくは下のウェブサイトをご覧ください。

仁淀ブルー体験博公式ウェブサイト <https://niyodoblue.club/>

9月28日(日) 12:10～& 15:00～(10分程度) 展示解説「特に綺麗な化石たち」

仁淀ブルー体験博との都合上、時間に変更となっております。ご注意ください。

青山文庫だより

伊藤蘭林はどうすごいのか？

多くの人びとが「蘭林先生」と敬称を付けて呼ぶように、「蘭林IIすごい(えらい)」というイメージが定着しています。ただし、どうすごいかを説明できる人は少ないのではないのでしょうか？

みなさんご存じのとおり、江戸時代や明治時代の佐川に関する資料はあまり残っていませんので、私も詳細な具体例を挙げることはできません。ただし、どうして「すごい」という印象が定着したのか、その理由を考えてみました。

まず、蘭林の学識については「和漢の才に長けていただけではなく、天文や算学にも才能を示す万能の学者であった」と評されています。江戸時代初期の日本では、日本や中国の学問を中心に学びましたが、後期には実学(暦学や測量などの実用的な学問)が学ばれるようになります。ただし、和漢の学問の方が格上でしたので、実学に長けた訳ではありません。蘭林は、本来学ぶべき学問を修めた上に、実学という新しい学問にも才能を見せていたということなのです。

そして、槍・剣・馬術にも優れていたような

ので、当時の武士たちが目指す「文武両道(学問も武術もがんばること)」を体現していたといえるでしょう。蘭林が個人的に有能な人であつたことは間違いないと思います。

さらに蘭林の評価を高めたのは、蘭林が佐川で教え続けたことに関係しています。佐川領が消滅した後、多くの武士層が高知市に移住しました。名教館で教えていた学者たちは武士身分なので、その多くは佐川を去っています。そのような状況下で、佐川に残った蘭林は、牧野富太郎をはじめとする旧町人層の子どもたちを教えはじめました。江戸時代の教え子の中には、田中光顕や広井勇など、佐川が誇る先人たちがいます。蘭林は彼らの師だったのです。

明治28(1895)年3月4日、蘭林が81歳で死去すると、蘭林の教え子たちの中から「蘭林先生の徳を後世に残すための石碑を建てよう」という声があがります。建設費確保のために寄附が募られるとすぐに大金が集まり、建設費を払ってもお金が残りしました。

このお金を、佐川の学生たちに褒賞や卒業記念品などを贈る活動にあてようと「蘭林先生紀徳奨学資金」がつくられました。この活動は、後に「蘭林賞」という名称で知られ、昭和29(1954)年まで続いていたことが確認できています(その後も続いていた可能性はありますので、ご存じの方はご一報ください)。

第10回 桜座 Lobby Concert

令和7年 9月6日(土) 【開場12時30分・開演13時・観覧無料】

佐川町立 桜座 2階ホワイエ(ロビー)

桜座のロビコンが10回目を迎えました。

楽器演奏や歌唱など、日頃の練習の成果を手軽に発表できる場としてスタートした桜座のロビコンが今回で10回を迎えることとなりました。今までの出演組数は135組、出演者数は延べ400人を超え、ギター、オカリナ、ウクレレを始め、アンデス楽器やバグパイプなど様々な楽器の演奏も行われました。今後皆さんに親しまれるロビコンとして実施して行きますので、どしどしのご応募、ご来場をよろしくお願いします。

10回記念演奏として 高知交響楽団弦楽カルテットが生出演。

弦楽四重奏の魅力は、4つの異なる弦楽器が織りなす豊かで繊細なハーモニーにあります。その洗練された響きは、作曲家を魅了し、数多くの名曲を生み出してきました。また、緻密なアンサンブルと高度な技術、演奏家間の深いコミュニケーションが聴く者を感動へと導きます。高知交響楽団弦楽カルテットの登場です。心に響く生演奏をごゆっくりお楽しみ下さい。

高知交響楽団弦楽カルテットの皆さん

（主催・お問合せ先）佐川町立 桜座 高岡部佐川町甲346-1 TEL 0889-22-7878（月曜休館）

<< プ ロ グ ラ ム >>

前半出演 (13:00～)	
出演者(人数)	使用楽器
① New Vacuum(8)	ウクレレ
② 楽団ひとり(1)	サクセス
③ ウクレレミューズ(7)	ウクレレ
④ 鐘の風音(4)	オカリナ
⑤ さかわギタークラブ(6)	ギター
⑥ ライマー(2)	ギター
⑦ M's Band(3)	ギター・ピアノ
⑧ モノチス & スミタカ(2)	ギター・マンドリン
ゲスト出演 (15:10～)	
高知交響楽団 弦楽カルテット	
(ポップスや映画音楽の演奏もあります。ご期待ください！)	
後半出演 (15:45～)	
出演者(人数)	使用楽器
⑨ FUZZ PROJECT(3)	ギター・カホン
⑩ ラッパ戦隊トランベッパーズ(4)	トランベット
⑪ すずめ&かものはし(5)	オカリナ・ギター
⑫ ア・サンテ(9)	自慢の喉
⑬ 桜座アルトサクセス講座(10)	アルトサクセス

(※ 時間は目安です。進行状況により前後いたします。)

「蘭林賞」の受賞者は、周囲から一目置かれる存在となり、進学や就職で県外に移った場合でも、東京佐川会や大阪佐川会などの諸先輩たちから引き立ててもらえたといえます。

結果的に、蘭林の具体的な優秀さは忘れられても、「蘭林賞」の栄光とともに蘭林の名前が語り継がれていくことになったのです。

つまり、蘭林は今でも佐川の学問や奨学精神の象徴で在り続けているのです。これが「すごい」と評されている理由ではないでしょうか。

伊藤蘭林について紹介している企画展「伊藤蘭林生誕210年記念展示 蘭林と佐川の学問」も、残り1カ月ほどとなりました。蘭林について興味をもつて見ていただけると嬉しいです。

(青山文庫 藤田有紀)

〔展示案内〕

○企画展「伊藤蘭林生誕210年記念展示 蘭林と佐川の学問」

○企画展「田中光顕が遺したものの志士たちの遺墨Ⅲ」

○小展示「植物学者・牧野富太郎」

6月28日(土)～10月5日(日)

〔臨時休館〕

10月7日(火)～10日(金)
展示替作業のため臨時休館します